様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ３０ 日現在

機関番号：３４６０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２０９８

研究課題名（和文）植民地朝鮮におけるセクシュアリティ言説研究

研究課題名（英文）A Study of Sexuality Discourse in Colonial Korea

研究代表者
光石　亜由美（MITSUISHI, ayumi）

奈良大学・文学部・教授

研究者番号：９０３８７８８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は植民地朝鮮におけるセクシュアリティ言説を調査し、植民地の〈性〉の地理学的配置の可視化することを目的とする。本研究、旅行案内、ガイドブック、雑誌記事、小説などの言説資料と、絵葉書、地図などの視覚資料からアプローチし、植民地の遊廓・歓楽街を立体的に描き出す点にある。旅行案内、ガイドブックなどでは妓生や私娼といった朝鮮人女性、また遊廓などのセクシュアリティ空間が観光資源として消費され、それだけではなく、朝鮮人女性と日本人男性の接触は、植民地の「異文化体験」として、植民地への興味・欲望を掻き立てる装置となり、植民地統治を、セクシュアリティの面からも支えていたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来の植民地統治を統制という観点からだけではなく、欲望や快楽という観点からとらえることに本研究の意義がある。公文書に残りにくい欲望や快楽という情動を同時代の言説資料からあぶりだし、データベースを構築した。また、視覚資料についても収集、データ化を試みた。植民地期という過去の言説・空間の研究であるが、現在に至る「慰安婦」「キーセン観光」などの日韓の歴史問題にもつながる起点となる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to investigate the sexuality discourse in colonial Korea and to visualize the geographical arrangement of <sex> in the colony. This research, travel guides, guidebooks, magazine articles, novels and other discourse materials, as well as visual materials such as postcards and maps, are used to create a three-dimensional representation of the colonial playground and entertainment district. Korean women, such as “妓生”and private prostitutes, and sexuality spaces, such as playgrounds, are consumed as tourist resources in travel guides and guidebooks. As a result, it became clear that it served as a device to stimulate interest and desire for the colony, and also supported colonial governance from the aspect of sexuality.

研究分野：日本近代文学

キーワード：セクシュアリティ　植民地　朝鮮　文学一般

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

研究代表者（光石亜由美）は、平成 22～24 年科学研究費補助金（基盤(C)(一般)）による「生殖とセクシュアリティの近代―東アジアにおける「近代家族」とジェンダー」（研究代表者：宮坂靖子）において、研究分担者として参加した。光石は韓国パートを担当した。この研究で明らかになったのは、１）家族外部のセクシュアリティは、家族内部の生殖とセクシュアリティの反射鏡となっていること。２）日本国内のみならず、台湾、朝鮮、中国という東アジアの植民地（外地）を参照系として用いることによって、日本における「近代家族」と「セクシュアリティの近代」の特質を浮上させることができることであった。これらの知見を「植民地朝鮮」に焦点化し、植民地朝鮮におけるセクシュアリティの近代へと発展させるのが、本研究開始当初の背景である。

２．研究の目的

本研究は植民地朝鮮におけるセクシュアリティの近代の様相を明らかにすることを目的とし、以下の３点に注目した。

①植民地朝鮮におけるセクシュアリティ言説の調査（植民地体験のある日韓の作家の書いた作品、同時代の雑誌記事などの調査、公娼、私娼等に関連する言説の収集）

②植民地の性の地理学的配置の可視化（当時の観光地図・絵葉書等の視覚資料、旧遊廓地の踏査によって都市構造と公娼制度の関連を研究）

③植民地朝鮮におけるセクシュアリティ言説に関する資料のデータベース化、資料翻訳等、日韓双方で使用できる資料体の構築。以上、植民地朝鮮におけるセクシュアリティの近代に関係する資料の収集、分析、翻訳・公開を研究の大きな軸とする。

これまで、植民地朝鮮における公娼制度についての研究では、主に、歴史学の分野において、遊廓設置に関する法令、買売春関連の政策、性病検査の施行など、性の管理政策の側面に重点があてられていた。本研究では、植民地における遊廓・歓楽街を単なる植民地支配下における性の管理政策の対象や、単なる男性の性欲処理の場所としてとらえるのではなく、遊廓・歓楽街をさまざまな欲望が錯綜する場としてとらえる。従来の管理政策関連資料・統計資料では見えてこない、開放／統制される欲望のあり方の総体を、植民地朝鮮におけるセクシュアリティの近代としてとらえるところに意義があると考える。

３．研究の方法

（１）研究基盤の整備：本研究は、植民地の性の地理学的配置の可視化するため、日韓の図書館の調査等を行い、資料のデータベース化作業を行う。

（２）フィールドワーク：植民地朝鮮における旧遊廓地域を踏査し、地理的な配置を確認。植民地期の残存建築等も調査し、言説分析と合わせて立体的な資料体を構築する。

（３）研究報告：日韓の研究者による合同研究会・ワークショップを開催する。また、成果報告書、翻訳などの形で研究成果を公表する。

（４）双方向システムの構築：（１）と（２）で得られた情報を翻訳、公開する。

４．研究成果

4-1. 研究基盤の整備とフィールドワーク

本研究は植民地朝鮮におけるセクシュアリティ言説を調査し、植民地の性の地理学的配置の可視化することを目的とするため、図書館等での資料収集による基盤の整備と、旧遊廓地でのフィールドワークを研究方法の主軸とした。

（１）研究基盤の整備

①日本国内での資料の調査・収集
日本国内では国立国会図書館を中心に基礎文献の収集を行うとともに、国立国会図書館関西館のアジア資料室、東京都立中央図書館の中国語、韓国・朝鮮語コーナー、朝鮮奨学会図書室において朝鮮・韓国関係の資料の収集を行った。特に注目した資料体としては、①植民地期の地誌、旅行案内、調査書などを復刻した『韓国地理風俗誌叢書』（韓国・景仁文化社）に掲載された４００タイトルのうち、植民地朝鮮の遊廓、歓楽街に関する記述を抽出し、データベース化を行った。また、②植民地期に発行された絵葉書、地図、パンフレット類の収集を行い、植民地朝鮮を空間的、視覚的に把握する資料として活用した。
②海外での資料の調査・収集
韓国の国立国会図書館、国立中央図書館、東国大学、慶熙大学では、日本国内では入手しづらい韓国語の論文資料等を閲覧、複写した。これによって日韓両国においての植民地のセクシュアリティ研究全般についての基礎資料を収集することができた。また、国立中央図書館、東国大学図書館では、植民地に発行された雑誌の復刻版を閲覧・複写し、雑誌言説の収集を行った。特に、『長恨』という雑誌では、妓生女性たちが発行した珍しい雑誌であり、言説対象としての妓生が、言説主体であったことが確認できた。
また、ソウル歴史博物館、釜山近代歴史館、釜山広域図書館（地域資料室）、木浦近代歴史館、そして中国の延辺朝鮮族自治州図書館では地域資料を調査した。
以上、研究基盤の整備として国内外での資料調査の結果、特に同時代の地誌・旅行案内・調査書と、絵葉書・地図などの資格資料を組み合わせることによって研究目的である植民地の性の地理学的配置の可視化が可能となったとともに、小説等に描かれた植民地朝鮮におけるセクシュアリティ言説の背景を把握することが可能となった。
③資料のデータベース化
上記の（１）研究基盤の整備として資料調査で得られた資料に関しては、データベース化、データ化を行った。特に、絵葉書、パンフレットの視覚資料については、資料撮影の専門家に撮影講習会の実施してもらい、調査地などにおいて簡易に撮影する技術、及び、撮影データを加工する技術を習得した。こうした技術は今後の調査・研究でも活用できるものである。
（２）フィールドワーク
植民地朝鮮における旧遊廓地域を踏査し、地理的な配置を確認。植民地期の残存建築等も調査し、言説分析と合わせて立体的な資料体を構築するため、研究計画にあげた、①植民地京城（現ソウル特別市）の旧遊廓地域、②釜山の旧遊廓地域、③木浦の旧遊廓地域のフィールドワークを行った。植民地期の地図との照応、都市の成立過程を実際のフィールドワークにおいて確認、残存建築等を撮影した。特に木浦では、旧日本寺である薬師寺の住職より聞き取り調査、老人センターでの聞き取り調査を行った。
（３）研究報告・公開
学会発表：「梶山季之「李朝残影」の植民地認識――植民地的男性主体の構築または脱構築」（第五回中日韓言語文化比較研究国際シンポジウム、於中国　延辺大学、2017 年 8 月 19 日）、「５科研連合研究集会　東アジアにおける日本語資料――外地文化研究の現在」（於：奈良大学、2018 年 12 月 15 日）、「韓国・木浦の旧遊廓地」（於：相対研究会、2019 年 6 月 15 日）、「〈植民地男性主体〉から〈戦後男性主体〉へ――植民地朝鮮を描いた戦後小説をめぐって――（パネルタイトル「経験の連続と非連続――戦後日本文学における〈外地〉」）」（日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会　合同国際研究集会、於：二松学舎大学、2019 年 11 月 24 日）を行った。最終報告会を 2020 年３月に行う予定であったが、新型コロナウィルス

の影響で中止としたが、何らかの形で成果報告を公開する予定である。
また、視覚資料のデジタル化について、「文系のための資料撮影講習会」「国語国文学史料へのデジタルアプローチ」を開催・共催し、研究者たちと広くデジタル化の技術を共有した。
研究基盤の整備で購入した資料の一部は、奈良大学図書館展示において、一般公開した。

4-2．植民地朝鮮におけるセクシュアリティ言説と空間

①植民地朝鮮におけるセクシュアリティ言説の調査結果

日本が植民地とした都市において、象徴的なシンボルは、軍隊と神社と遊廓であるといわれる。とくに、神社と遊廓は欧米の植民地にはなく、日本特有のものである（橋谷弘『帝国日本と植民地都市』吉川弘文館、2004 年）。1876 年の開国以後、朝鮮各地に日本人居留地ができ、そこに日本人性売買業者が遊廓を設置するようになる。日本の植民地政策の拡大とともに、遊廓が全国に拡散する。軍隊が武力による威圧的統合を、神社が宗教による精神的統合を植民地の人々に強いる働きを持っていたとすれば、植民地における遊廓等のセクシュアリティ空間とは、人々の欲望を開放／統制する空間であったといえる。
近年、金富子・金栄『植民地遊廓　日本の軍隊と朝鮮半島』（吉川弘文館、2018 年）、吉見義明『買春する帝国　日本軍「慰安婦」問題の基底』（岩波書店、2019 年）など、植民地遊廓の研究がまとめられてきた。こうした歴史学の先行研究の知見に加え、遊廓・歓楽街をさまざまな欲望が錯綜する場としてとらえ、人々の感情や欲望がいかに開放／統制されるのかを、植民地体験のある日韓の作家の書いた作品、同時代の雑誌記事などの調査、公娼、私娼等に関連する言説を収集することによって行った。
この調査の過程で注目すべきなのは「妓生」の表象である。もともと朝鮮王朝時代には「官妓」であった妓生は、日本の植民地化の過程において、公娼制度に組み込まれてゆく。こうした日本の公娼制度の、朝鮮への移植過程については先に紹介した先行研究が詳しいが、今回、旅行案内、ガイドブック等の調査を通じて、妓生は「観光資源」として活用されてていたこと、また絵葉書等に写し取られた妓生の表象は、植民地へ興味を喚起し、文学作品の中でしばしば描かれる妓生イメージと呼応しながら、植民地イメージを形成している。「梶山季之「李朝残影」の植民地認識――植民地的男性主体の構築または脱構築」（第五回中日韓言語文化比較研究国際シンポジウム、於中国　延辺大学、2017 年 8 月 19 日）では、戦後の作品である梶山季之「李朝残影」においても「妓生」が再生産され、植民地的男性主体の構築に「妓生」という植民地のセクシュアリティの表象が重要であることを論じた。
また、文献調査の過程で、公娼制度の公式な資料では確認できない、私娼窟、酒幕などのグレーゾーンの買売春地帯とその様相を確認できたのも成果といえる。特に「蝎蛸」（ガルボ）と呼ばれた私娼については、伝統的な「妓生」と対照的に、植民地の裏側を描き出す素材とされ、張赫宙「ガルボウ」、田中英光『酔いどれ船』などの小説の中にも確認できた。
以上のように、旅行案内等では、こうした「妓生」や「ガルボ」の情報を提供し、彼女たちを「観光資源」として活用していたこと、小説作品で描かれる遊廓や歓楽街で出会う女性たちと日本人男性の接触は、植民地の「異文化体験」として、植民地への興味・欲望を掻き立てる装置となっていたことが見えてきた。そうした植民地における日本人男性の欲望の解放が、植民地における〈日本人男性／朝鮮人女性＝支配する日本／支配される朝鮮〉という植民地統治の構図を、セクシュアリティの面からも支えていたことが明らかになった。

②植民地の性の地理学的配置

植民地朝鮮におけるセクシュアリティ空間を、上記①の言説面だけではなく、フィールドワークを通じて地理学的踏査も行った。日本人居住区と朝鮮人居住区が分かれていた植民地においては、〈性〉の空間も民族によって分断されていた。〈民族〉と〈性〉の地理学的イメージがどのように形成されるのかを調査した。
旅行案内、ガイドブック等では遊廓が「観光名所」として組み込まれていることがある。1930 年に発行された『全国遊廓案内』では、日本国内だけではなく植民地であった台湾、朝鮮の

遊廓も紹介されている。こうした同時代の資料と地図を手掛かりに調査を行った。
京城の「東新地（西四軒町・並木町）」については、中島敦「プウルの傍らで」において、朝鮮人遊廓に越境する日本人学生が描かれる。また、金達寿『玄界灘』においても、日本人遊廓である「新町遊廓」と朝鮮人遊廓である「東新地（西四軒町・並木町）」が描かれる。道を隔てた二つの遊廓は、地理的な相違だけではなく、民族的な境界線でもあったことがわかる。また、木浦の「桜町遊廓」については、現在住宅地であるが旧遊廓建築がいくつか残存している。京城、釜山、木浦の旧遊廓地はいずれも繁華街から少し離れたところに位置している。また、京城の遊廓は軍や憲兵隊関係の施設の近隣に位置しているのも植民地遊廓の特徴である。特に、木浦の「桜町遊廓」については、丘陵で市街地と隔てられ、海に面した傾斜地に作られ、当時の文献からも風光明媚な場所であったことがわかる。釜山の「緑町遊廓」、木浦の「桜町遊廓」が描かれている小説は発見できなかったが、京城の遊郭については中島敦、田中秀光、梶山季之などの小説に描かれている。市街地から少し離れた位置関係は、別世界を演出する遊廓という空間にふさわしい立地として選ばれたと考えられる。植民地という「異文化体験」をエキゾティックに演出する際において、こうした地理学的配置への観点も重要であることが明らかになった。
①の言説調査と②のフィールドワークを通じて明らかになったことは、植民地においては、日本人居住区と朝鮮人居住区という居住地の棲み分けと同様、日本人遊廓と朝鮮人遊廓というように、〈性〉の空間も民族によって分断されていたが、日本人男性だけは、双方を利用できたこと、また、「妓生」や「ガルボ」といった朝鮮人女性との接触においても、日本人男性は朝鮮人居住地に越境できたことがわかった。植民地における遊廓・歓楽街などのセクシュアリティ空間は植民地公娼制度下における〈性〉の管理政策の対象や、単なる男性の性欲処理の場所というだけではなく、こうしたセクシュアリティ空間の越境体験は、「異文化体験」として日本人男性の欲望を喚起し、享楽、欲望という面からも植民地支配を強固にしていたと考えられる。
4-3．他分野、韓国研究者との連携活動
本研究課題はその特性上、韓国の研究者との連携が不可欠である。そのため、孫知延氏（慶熙大学教授）、朴光賢氏（東国大学）より植民地期の雑誌について情報提供、意見交換を行った。北朝鮮人民共和国の研究を行っている郭奎煥氏（吉林師範大学・大学院博士課程）より、旧植民地朝鮮においても現在資料の入手しにくい北朝鮮関係の資料の調査のアドバイスを得て、当時の社会的背景を把握するための情報を収集した。また、調査の過程で、ソジョンス氏（木浦文化院長）、キムジョンギ氏（同文化院委員）、ヨンギュヒョン氏（ヨンキュホンド住宅研究所）の知己を得ることができ、さまざまな情報を得ることができた。
他分野の研究者との連携としては、「植民地」を研究対象とする他分野の研究者とともに、「５科研連合研究集会　東アジアにおける日本語資料――外地文化研究の現在」(2018 年 12 月 15 日、於：奈良大学）を開催し、植民地朝鮮以外の、台湾、中国、旧満州などの資料の残存状況についての報告、各地域における研究状況などの報告を行い、地域を越えての研究の連携の可能性を広げた。なお、共催した課題と研究代表者は以下の通りである。
16K02428「汪兆銘政権勢力下における日本語文学状況の基礎的・発展的研究」（木田隆文）
16K02426「野上弥生子『台湾』及び台湾関連日本近代文学の史料的・文学的価値に関する複層的研究」（渡邊ルリ）
17K02484「戦前期の中国・樺太で刊行された日本語図書（文学関係中心）の書目総覧の作成」（竹松良明）
18K00335「日本占領下華北における日本語文学の様相に関する基礎的・発展的研究」（戸塚麻子）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 光石亜由美
２．発表標題 梶山季之「李朝残影」の植民地認識――植民地的男性主体の構築または脱構築
３．学会等名 第五回中日韓言語文化比較研究国際シンポジウム（於：中国　延辺大学）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 光石亜由美
２．発表標題 〈植民地男性主体〉から〈戦後男性主体〉へ――植民地朝鮮を描いた戦後小説をめぐって――（パネルタイトル「経験の連続と非連続――戦後日本文学における〈外地〉」）
３．学会等名 日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会　合同国際研究集会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考